

同時資料配布先：

経済産業記者会

学研都市記者クラブ

2019年10月23日

公益財団法人地球環境産業技術研究組合
次世代型膜モジュール技術研究組合

革新的 CO₂ 分離回収技術シンポジウム

～ 地球温暖化防止に貢献する固体吸収材及び膜による分離回収技術の最新動向 ～ 開催について

公益財団法人地球環境産業技術研究組合（RITE）と次世代型膜モジュール技術研究組合（MGM 組合）は、広くご関係の皆様にご紹介するため、2020年1月20日に「革新的 CO₂ 分離回収技術シンポジウム」を共同開催致します。

固体吸収材および分離膜を利用する CO₂ 分離回収技術は、温暖化対策の重要な選択肢の一つである CCUS (Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage) における低コストな CO₂ の分離・回収技術として期待されています。

今回のシンポジウムでは、基調講演として公益財団法人地球環境産業技術研究機構の山地憲治副理事長、招待講演として電源開発株式会社の野口嘉一開発計画部長、早稲田大学の中垣隆雄教授を迎え、CCUS の課題と展望や CO₂ 分離回収技術の適用が期待される石炭火力発電などの最新動向やトピックスについてご講演頂きます。

また、RITE および MGM 組合が NEDO 委託事業において研究開発している固体吸収材および CO₂ 分離膜技術の最近の進捗に加え、海外の CO₂ 分離回収技術の最新動向についてもご報告いたします。

CCUS や固体吸収材、膜分離技術にご関心をお持ちの皆様には、最新動向をお聞き頂ける絶好の機会ですので、是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

※次世代型膜モジュール技術研究組合

（組合員：住友化学株式会社、公益財団法人地球環境産業技術研究機構）

1. 開催趣旨

パリ協定は、世界全体の平均気温の上昇を工業化以前よりも 2℃高い水準を十分に下回るものに抑えるとともに、1.5℃高い水準までのものに制限するための努力を継続すること、このために、今世紀後半に温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡（世界全体でのカーボンニュートラル）を達成することを目指すこと等を定めている。地球温暖化対策の重要な選択肢の一つとして、二酸化炭素回収・利用・貯留（CCUS：Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage）が挙げられます。

そのなかで、（国研）新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）からの「CO₂ 分離回収技術の研究開発」に関する委託事業で、（公財）地球環境産業技術研究機構（RITE）は、現行の

石炭火力発電所等の排ガスから高効率・低エネルギーでCO₂を分離回収する固体吸収材の開発（先進的二酸化炭素固体吸収材実用化研究開発）を、一方で次世代型膜モジュール技術研究組合は、効率的な石炭ガス化発電として期待されているIGCC等で発生する圧力を有するガスから、低コストでCO₂を分離回収する分離膜の開発（二酸化炭素分離膜モジュール実用化研究開発）を進めています。

これまで次世代型膜モジュール技術研究組合が革新的CO₂膜分離技術シンポジウムを開催しておりましたが、本年度は、RITEが同じNEDOからの委託事業で行っている固体吸収材の開発動向を併せた形で開催し、NEDO委託事業における固体吸収材及び分離膜の技術や国内外での二酸化炭素分離回収技術の研究開発動向について、最新の情報について知っていただくことを目的としています。

2. 開催概要

主 催： 公益財団法人地球環境産業技術研究機構、次世代型膜モジュール技術研究組合

共 催： 経済産業省、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

後 援： 日本 CCS 調査株式会社、Global CCS Institute、公益社団法人新化学技術推進協会

協 賛： 日本膜学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人高分子学会、
公益社団法人日本化学会

日 時： 2020年1月20日（月）13時00分～17時10分（受付開始12時30分）

会 場： 東京大学 伊藤謝恩ホール（本郷キャンパス 赤門東隣り）定員396席

参加費： 無料

プログラム（敬称略）：

- ・基調講演 「CCUS 実用化への展望と課題」
公益財団法人地球環境産業技術研究機構 副理事長 山地 憲治
 - ・招待講演①「石炭火力発電の現況と展望」
電源開発株式会社 開発計画部 部長 野口 嘉一
 - ・招待講演②「CO₂分離回収技術の課題と展望」
早稲田大学 創造理工学研究科 理工学術院 教授 中垣 隆雄
 - ・活動報告①「先進的二酸化炭素固体吸収材実用化研究開発の進捗について」
公益財団法人地球環境産業技術研究機構 副主席研究員 余語 克則
 - ・活動報告②「二酸化炭素分離膜モジュール実用化研究開発の進捗について」
次世代型膜モジュール技術研究組合 専務理事 中尾 真一
 - ・活動報告③「海外のCO₂分離回収技術の最新動向」
次世代型膜モジュール技術研究組合 主任研究員 山田 秀尚
- （詳細は別紙をご参照ください。）

3. 参加登録

参加を希望される方は、下記 RITE ウェブサイトよりお申し込み下さい。

<http://www.rite.or.jp/news/events/>

4. プレス登録

取材を希望される報道関係者の方も、事前にお申し込み下さいますようお願い致します
(やむを得ず当日受付となる場合は、本人確認のため名刺をご持参下さい)。

お問合せ先

○シンポジウムの内容・参加登録に関するお問合せ先：

- ・公益財団法人地球環境産業技術研究機構 余語、馬場、菰野、大西
TEL : 0774-75-2305 E-mail : mgmsympo@rite.or.jp

○本プレス発表に関するお問い合わせ先：

- ・公益財団法人地球環境産業技術研究機構
企画調査グループ 広報・産業連携チーム 川口、辰巳
TEL : 0774-75-2301 E-mail : pub_rite@rite.or.jp

革新的 CO₂ 分離回収技術シンポジウム

～地球温暖化防止に貢献する固体吸収材及び膜による分離回収技術の最新動向～

令和 2 年 1 月 20 日（月） 開催

時 間： 13 時 00 分～17 時 10 分（受付開始 12 時 30 分）

会 場： 東京大学伊藤謝恩ホール（定員 396 名）

参加費： 無料

主 催：（公財）地球環境産業技術研究機構と次世代型膜モジュール技術研究組合^(*)の共同開催

共 催： 経済産業省、(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構

後 援（予定）： 日本 CCS 調査（株）、Global CCS Institute、(公社)新化学技術推進協会

協 賛（予定）： 日本膜学会、(公社)化学工学会、(公社)高分子学会、(公社)日本化学会

(*) 次世代型膜モジュール技術研究組合の組合員： 住友化学㈱と(公財)地球環境産業技術研究機構

開催趣旨

パリ協定は、世界全体の平均気温の上昇を工業化以前よりも 2℃高い水準を十分に下回るものに抑えるとともに、1.5℃高い水準までのものに制限するための努力を継続すること、このために、今世紀後半に温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡（世界全体でのカーボンニュートラル）を達成することを目指すこと等を定めている。地球温暖化対策の重要な選択枝の一つとして、二酸化炭素回収・貯留（CCS：Carbon dioxide Capture and Storage）が挙げられます。

そのなかで、(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）からの「CO₂ 分離回収技術の研究開発」に関する委託事業で、(公財)地球環境産業技術研究機構（RITE）は、現行の石炭火力発電所等の排ガスから高効率・低エネルギーで CO₂ を分離回収する固体吸収材の開発（先進的二酸化炭素固体吸収材実用化研究開発）を、一方で次世代型膜モジュール技術研究組合は、効率的な石炭ガス化発電として期待されている IGCC 等で発生する圧力を有するガスから、低コストで CO₂ を分離回収する分離膜の開発（二酸化炭素分離膜モジュール実用化研究開発）を進めています。

これまで次世代型膜モジュール技術研究組合が革新的 CO₂ 膜分離技術シンポジウムを開催していましたが、本年度は、RITE が同じ NEDO からの委託事業で行っている固体吸収材の開発動向を併せた形で開催し、NEDO 委託事業における固体吸収材及び分離膜の技術や国内外での二酸化炭素分離回収技術の研究開発動向について、最新の情報について知っていただくことを目的としています。

プログラム

13:00	開会		
13:00-13:05	主催者挨拶	(公財)地球環境産業技術研究機構	理事長 茅 陽一
13:05-13:10	共催者挨拶	経済産業省 産業技術環境局 環境政策課 地球環境対策室 室長	川口 征洋
13:10-13:15	共催者挨拶	(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構	環境部 部長 田中 秀明
13:15-13:50	基調講演	「CCUS 実用化への展望と課題」 (公財)地球環境産業技術研究機構	副理事長 山地 憲治
13:50-14:25	招待講演①	「石炭火力発電の現況と展望」 電源開発株式会社 開発計画部	部長 野口 嘉一
14:25-15:00	招待講演②	「CO ₂ 分離回収技術の課題と展望」 早稲田大学 創造理工学研究科 理工学術院	教授 中垣 隆雄
15:00-15:30	休憩	ポスターセッション	

15:30-16:05	活動報告①	「先進的二氧化碳固体吸収材実用化研究開発の進捗について」 (公財)地球環境産業技術研究機構	副主席研究員	余語 克則
16:05-16:40	活動報告②	「二氧化碳分離膜モジュール実用化研究開発の進捗について」 次世代型膜モジュール技術研究組合	専務理事	中尾 真一
16:40-16:55	活動報告③	「海外のCO ₂ 分離回収技術の最新動向」 次世代型膜モジュール技術研究組合	主任研究員	山田 秀尚
16:55-17:00	閉会挨拶	次世代型膜モジュール技術研究組合	理事長	栗本 勲
17:00-17:05	閉会			

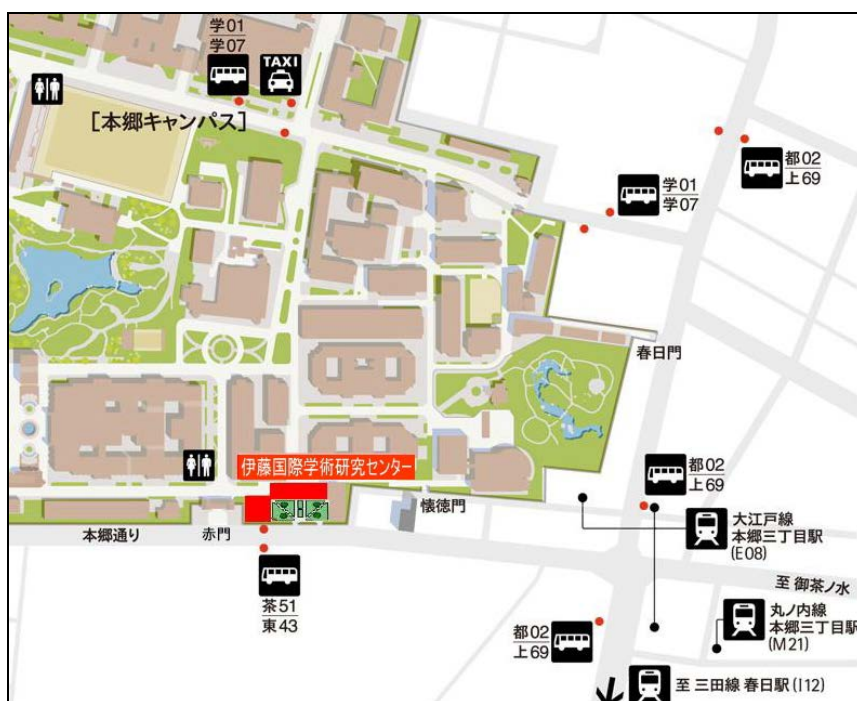
*上記プログラム内容については、変更されることがあります。

○ 会場のご案内

東京大学伊藤謝恩ホール (〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1、TEL 03-5841-0779)

【アクセス】

最寄り駅	所要時間
本郷三丁目駅(地下鉄丸の内線)	徒歩8分
本郷三丁目駅(地下鉄大江戸線)	徒歩6分
湯島駅または根津駅(地下鉄千代田線)	徒歩15分



○ 参加申込方法

所属、住所、氏名、電話番号、メールアドレスを下記 URL 内の申込専用フォームにご記入下さい。

<http://www.rite.or.jp/news/events/>

○ お問い合わせ先

(公財)地球環境産業技術研究機構	化学研究グループ	TEL:0774-75-2305
次世代型膜モジュール技術研究組合	総務部	TEL:0774-72-0230
E-mail : mgmsympo@rite.or.jp		